

道徳学習指導案

指導者名 T1

T2

- 1 日時 平成28年11月18日(金)
- 2 学級 第3学年 3組 男子14名 女子16名 計30名
- 3 主題名 D-(22) よりよく生きる喜び(関連項目A4 [克己と強い意志])
- 4 本時のねらい

高い目標を設定し、着実に努力を重ねてきた主人公の葛藤を通して、誇りを持ち、気高く生きようとする道徳的判断力を育む。

- 5 資料名 「努のジレンマ」 協働 自作資料
- 6 主題設定の理由

○ 主題観・価値観

主題は中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 内容項目D22「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。」に基づいて設定した。人間は時として様々な誘惑に負け、やすきに流れることもあるが、誰もがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦い、それに打ち勝って、人間として生きる喜びに気付くことができる。そこで、自分の弱さや醜さを強さや気高さに変えられるという確かな自信や自己肯定できる力が必要であると考え、道徳的判断力を高めることをねらいとする本主題を設定した。

○ 生徒観

本学級の生徒は、5月の道徳アンケートによると、「互いを信頼して、話し合ったり、励まし合ったりして、よりよい学校生活をつくろうとしている」生徒が93.1%と高い。しかし、時に人間関係のもつれから自分勝手な言動をおこしたり、学級全体の雰囲気が悪くなったりすることもある。また、他者の発言を茶化したりする場面も見られる。アンケートでは、「他の人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている。」と回答した生徒は75.8%であった。すべての生徒が、他者の考えを聞き、自分の行動や言動に活かしていこうとすることができるように指導していきたい。

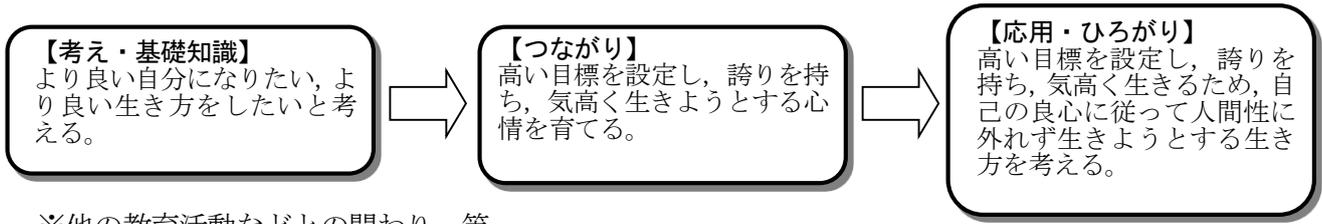
また、『道徳の時間』では、話し合い活動を積極的に取り入れ、意見を交わすことによって、他者の考えにふれ「よりよい生き方」について自分の考えを深めることができると考えられる。また、「道徳の時間」だけでなく、教科の授業や学級活動においても、小グループでの話し合い活動を取り入れ、個別の活動からスムーズに話し合い活動に移れるようにして「道徳の時間」の充実につなげていきたい。

○ 資料観・指導観

本資料は、1984年ロス五輪、柔道無差別級決勝戦で日本の山下選手とエジプトのラシュワン選手の試合のエピソードをもとにして作成された資料を、中学生の実態に合わせて改作した。

優勝を目指して一生懸命努力してきた「努」が、足を痛めて引きずりながらも向かってくる「柳田」に対して、その足を攻めるべきか、攻めるべきでないかで迷う場面を取り扱っている。この資料に書かれている内容は、実際に部活等で同じような場面を経験したり、スポーツ観戦する中で見聞きしたりするできごとであると思われる。したがって、生徒一人一人が「努」の立場を借りて、主人公「努」のジレンマに共感させ、努のジレンマをネームプレートを利用して他者と自分の考えを可視化し、全員が自分の考えを小グループで表現し、多様な価値観を交流させ、どうすべきか判断することを通して道徳的価値を高めていきたい。また、本時のねらいを達成するために、小グループでの話し合い活動を取り入れ、自分の考えをより深く見つめ直させ、よりよく生きるための道徳的判断力を身につけさせたい。

7 「主体的な学び」を意識した指導計画



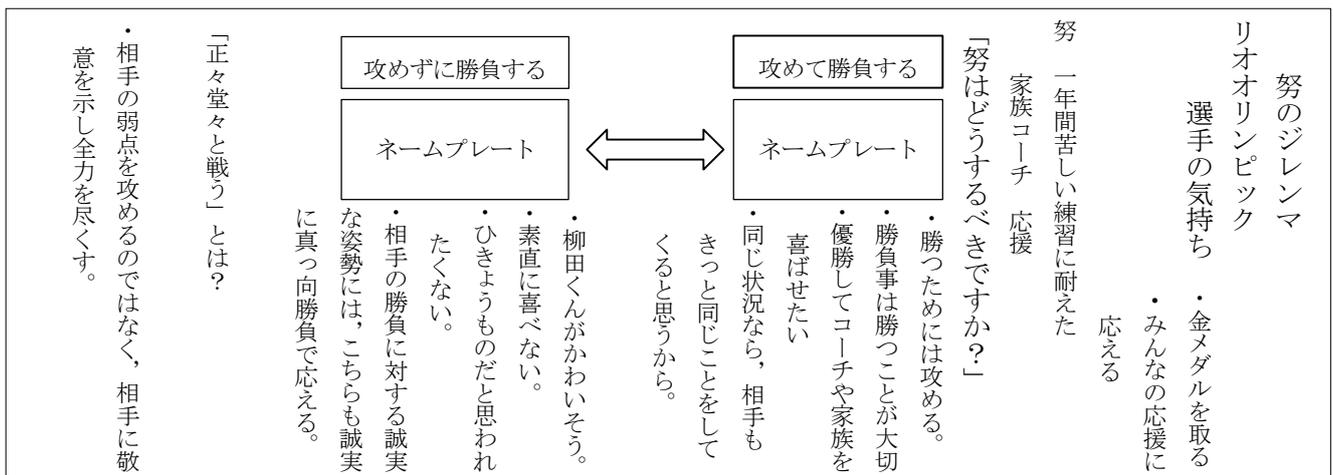
※他の教育活動などとの関わり 等

8 学習指導過程

段階	学習活動	◇指導上の留意点 主な発問と予想される生徒の心の動き (主な発問 (○), 中心発問 (◎), 予想される生徒の反応)	T1	T2	評価 (評価方法)
導入	1 リオオリンピックを観戦した経験を話し合う。	○選手はどんな気持ちで参加していたと思いますか。 ・絶対金メダルをとる。 ・みんなの応援に応える。 ・今まで頑張ってきた成果を出しきる。 ◇写真を掲示し、本時の課題についての関心・意欲を高める。	発問 指名	観察 操作	
展開	2 資料「努のジレンマ」を読んで、話し合う。 (1) 努はどうすべきか考える。 (2) A, Bの理由づけについて小グループで交流し、発表しあう。	○「努」はどうすべきですか。 [A 攻めて勝負する] ・痛いと思うけど勝つためには攻める。 ・勝負事は勝つことが大切だから。 ・今年こそ優勝する意気込みでいるし、優勝して家族やコーチを喜ばせたい。 ・今まで一生懸命練習してきたし、どんなことをしても勝ちたい。 [B 攻めずに勝負する] ・攻めれば優勝できるかもしれないけど、柳田がかわいそう。 ・正々堂々と勝負したい。 ・必死に攻めていく柳田に申し訳ない。 ・攻めて勝ったとしても素直に喜べない。 ◇ワークシートに記入し、考えをまとめさせ、自分の立場を明確にするために、ネームプレートを黒板に張らせ、グループ分けする。 ◇グループ活動を取り入れ、多様な考え方に触れることで、自分の考えを検討し、本時のねらいに迫らせる。 ◇T1, T2で段階3, 4の生徒の意見を取だし、指名して発表させる。	範読 発問	板書 補助 発問	

	(3) 考えを発表する。	◎「正々堂々と戦う」「スポーツマンシップにのっとって戦う」について考えを書いてみよう。 ・卑怯な手を使わずに勝負して戦う。 ・お互い自分のベストを尽くして戦う。 ・特に弱点を集中的に狙うのではなく、自分が練習してきた戦い方で勝負する。 ・手を抜かずに戦うこと。	実態把握 発問	実態把握 板書補助 発問	努の気持ちについて多様な考えに触れることで、よりよく生きるとはどういう生き方なのかを自ら問いかけ、道徳的判断を身につけることができた。 (発言・ワークシートへの記述)
終末	3 教師の説話を聞く。	◇実際のオリンピックでの山下選手とラシュワ ン選手の実話を紹介し道徳的価値への意欲を高める。	説話		
	<p>生徒のまとめ例</p> <p>最初は、自分の目標達成のためには、相手の弱点を攻めることはしかたないことだと考えていたが、弱点を攻めて勝つことはフェアな戦い方ではないと思うし、攻めずに戦っても相手に失礼になり、正々堂々と戦ったことにはならないことに気づいた。</p>				

9 板書計画



【参考】

- 「平成28年度 広島県教育資料」道徳の事例 PP.145-146
- 「道徳教育研修ハンドブック」(広島県教育委員会 H27.3)
- 広南中学校教育研究会における学習指導案
- 「山下泰裕 公式HP」など

右足を攻める	右足を攻めない
段階1	
他律的な道徳性	
<ul style="list-style-type: none">・攻めないとコーチに怒られる。・優勝するように言われている。	<ul style="list-style-type: none">・柳田くんがかawaiiそう。・家族から言われているから。
段階2 個人主義・道具的な道徳性	
<ul style="list-style-type: none">・右足を攻めると確実に勝って優勝できるから。・けがをしたのは、努のせいでないから。	<ul style="list-style-type: none">・ここで攻めると相手側から卑怯者だと言われる。・これ以上攻めると、もっと痛めるから。
段階3 対人的規範の道徳性	
<ul style="list-style-type: none">・勝つために練習してきたし、攻めて勝てばみんな喜んでくれるから。・同じ状況なら、相手もきっと同じことをしてくると思うから。・相手の弱点をつくことも、試合においてはひとつの戦法である。	<ul style="list-style-type: none">・勝負は誰が見ても正々堂々でなければならないから、卑怯と思われたくない。・負傷している足を攻めて勝っても、心から喜べない。・卑怯な手段を使って勝つことは許されない。・スポーツマンシップに反している。
段階4 社会システムの道徳性	
<ul style="list-style-type: none">・結果的に攻めることになったとしても、それはルール違反ではない。それ以上に自分のベストを尽くすことが大切である。・相手の勝負に対する誠実な姿勢には、こちらも誠実に真っ向勝負で応える。	